音楽科学習指導案

創作活動 音色による感情表現
～身の回りにある素材を使って表現活動の可能性を探究する～

授業者 附属池田中学校 山部 智可

1. 対象 附属池田中学校第2学年 B 組（37 名）

2. 単元目標

音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を見に付けるようにする。 (2)音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

・知識及び技能に関して

①音の分析(音色による感情表現)をするために、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を表したいイメージと関わらせて理解する。

②自分なりに音の分析(音色による感情表現)に必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を見に付けるようにする。

・思考力，判断力，表現力等に関して

音の分析(音色による感情表現)に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫するために思いや意図を生み出すようにする。

・学びに向かう力，人間性等に関して

音楽を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組み、聴き手に生み出した演奏作品の思いや意図を伝えるために粘り強く創作活動の学習活動に取り組む態度を養う。

3. 指導に当たって

（1）教材観

本単元は中学校学習指導要領音楽科「A 表現」(3)創作に関する内容である。

指導事項

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること

イ (イ)音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を見に付けること

［共通事項］ アに示された音楽を形づくっている要素から主に、音色を中心に扱う。

この単元のねらいは、音の持つ力や価値について考えるきっかけを与え、この単元の重要概念である「コミュニケーション」について探究していく。コミュニケーションは人と人とが意思疎通を図る上で必要不可欠なもので

ある。コミュニケーションのツールとして言葉はもちろんのこと、それ以外の方法として、ボディーランゲージなど、ノンバーバルコミュニケーションも相手に意志を伝えるための一つの方法である。今回は、普段の生活の中で耳にする「音」に焦点を当てる。我々が発している音は、時に、その音を聞いた人たちへ何かしらのメッセージを伝えていることもあるのではないだろうか。人間は感情の生き物である。音に自身の感情移入をし、怒りや悲しみの音を発していることはないだろうか。今回の創作活動は生活や社会の中の音の存在に気づき、自身が発している音が受け手は、どのように捉えているのか、音の価値について考えを深める学習である。

単元の最初に、「音」とは何か？生徒自身が音と向き合う時間を設定する。そのために、音の三要素(音の大きさ・音の高さ・音色)について触れる。それを基に事前に生徒に行ったアンケートの結果「学校生活の中で自分自身が発している音、生み出している音」について話をする。アンケートの集計結果から得た音の数は275個となった。(アンケート結果は次のページを参照。)このような結果から、学校生活の中で、これだけたくさんの音を人が生み出していることと、これだけたくさんの音が存在していることに気づかせたい。

次に、音の分析を個人で行う。「自身がいつも使っている一つの素材＋自分自身＝生み出される音」を音の三要素を意識させながら、音を作らせる。そして、その作った音をクラス内で発表し合い、どのような音が生み出されているのか生徒自身が気づき発見する機会を設けたい。

さらに、自身が生み出した音から「自分が感じる快適な音と不快な音」を作らせる。音の三要素である音の大きさ・音の高さを工夫させ音を作らせたい。そして、その作った音をクラス内で発表し合い、聴き手にどのように伝わったのかお互いフィードバックを行い「音」が人にもたらす影響力について考えさせたい。音楽科の学習は、生徒が音や音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき、生徒の音楽に対する感性が働くとされている。この創作の取り組みにおいて生徒たちの音楽に対する感性が豊かに育まれるような授業を目指したい。

この過程を経て、班活動の取り組みに入る。今回の探究テーマである「音色による感情表現」をポジティブな感情とネガティブな感情、2つの相反する感情を身の回りの素材を使って創作活動を行う。

そして、創作した音(自分たちが意図して発している音)は聴き手にどのように伝わっているのか、お互いフィードバックを行い効果的なコミュニケーションのあり方について考える。音楽の授業を通して、音によるコミュニケーションとしての音楽独自の特質を踏まえ、音や音楽によって、人は自己の心情をどのように表現してきたか、人と人とがどのように感情を伝え合い、共有し合ってきたかなどについて、生徒が実感できるような指導を心がけたい。

最後に、生徒が音を意識して聴き、その音が人々にどのような影響を与えているのかを考えたり、よりよい音環境の在り方への関心を高めたりすることは意味のあることと言える。音楽科の学習において、自然音や環境音、さらには、音環境への関心を高めることは、人間にとっての音や音楽の存在意義について考えたり、生活や社会におけるよりよい音環境を希求する意識をもったりすることへとつながっていくと考えられる。

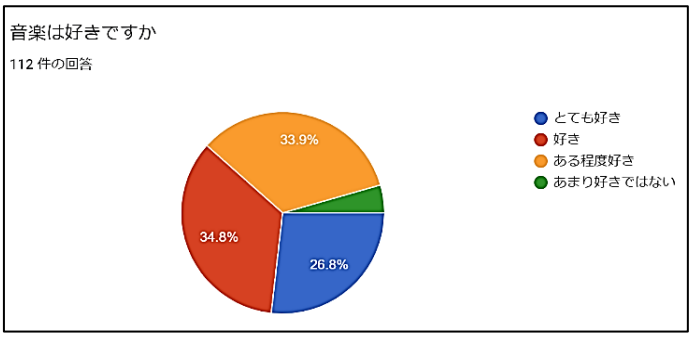
Oアンケート結果

人＝発する音	人＋人＝発する音	人＋物＝発する音			
あくびをする音	喋る声	椅子をひく音	階段をのぼる音	プリントをめくる音	服の裾が擦れる音
歩く音	野球の練習の時の声	お弁当を開ける音	階段を降りる足音	プリントを配る音	ちょっと硬いものを食べる音
くしゃみをする音	笑い声	カバンのチャックを開ける音	教室移動するときの足音	プリントをグシャグシャにしている音	下駄箱に靴をしまう音
ため息	話し声	カバンを開けるときの音	廊下を歩いている足音	プリントを回す音	上履きが床をこする音
自分自身の声	部活動の時に走っている足音	カバンを揺らす音	足が階段などにぶつかる音	紙をめくる音	発表する時の音
手で拍手する音	友達と会話をするときの声	キーボードを打つ音	階段を降りる時の音	鉛筆でプリントに文字を書いている音	プールで泳いでる時の音
手をたたく音	友達と喋る声	キーボードを叩く音	階段を登る音	紙をファイルにしまう音	運動場を走る音
手を叩いた音	人と喋る音	クロームブックを閉じる音	上靴で床を歩く音	紙を破る音	教壇に立つ音
手を叩く時に出す音。	指ぱっちん	クロームを勢いよく閉める音	食べる音	教科書の開閉の音	金属音
奇声	友達を呼ぶ声	パソコンでタイピングの音	水を飲む音	教科書などのページをめくる音	カバンを机に置く音
呼吸をする音	友達の肩をたたく音	パソコンを入力するときのキーボードの音	手を洗う音	教科書やファイルをめくる音	サーキュレータの電源をつける音
発声		授業のチャイムと同時に鳴り響くChromebookを閉じる音	水を流す音	本のページをめくる音	水たまりを踏む音
咳の音		グローブ(野球)の捕球音	電気をつける音	本をめくる音	水筒を倒した時の音
いびき(寝ていません)		バットでボールを打つ音	靴を履く音	ファスナーを開ける音	消しゴムが床に落ちる音
心臓の音		バットの音	水筒の蓋を開ける音	リュックを開ける音	服を着る音
声		ゲームのコントローラーを動かしているとき	お茶を飲む音	バックのジッパーを開ける音	物を持つ音
走っているときの音		ご飯を食べるとき	お弁当を食べる音	リュックのファスナーを開閉する音	体操服袋を回す音
走っているときの荒い息の音		シャーペンで文字を書く音	お弁当箱を開ける音	カバンや筆箱のファスナーを開閉する音	自動販売機で水を買う音
走る音		シャーペンのカチカチする音	コップを置く音	筆箱から文房具を取り出す音	理科の実験で物を燃やす時の音
走る時の足音		シャーペンをノックする音	飲み物を飲む音	筆箱を開ける時の音	アルコールを出す音
走っているときの足の音		シャーペンの筆記音	箸を取り出す音	筆箱に文房具を入れる音	音楽の授業で楽器をひく時に出す音
息を吸う・吐く音		シャーペンの芯を出す音	箸を落とした時の音	筆箱のチャックを開ける音。	音楽の授業で琴をするときの音
足音		シャーペンから芯を出すためにシャーペンの上を押すときの音	袋を開ける音	筆箱から中身を出すときに文房具が当たり合う音	楽器を鳴らす音
歩いているときの音		バスケットボールでシュートして入った音	水を流す音	黒板で文字を書く音	楽器を演奏する音
歩く時の音		バスケットボールでドリブルしている音	蛇口から水を出す音	黒板に書く音	窓を開ける音
裏声		バレーボールでレシーブする音	トイレの水を流す音	チョークで黒板に文字を書いている音。	附中に夢中の音楽
咀嚼音		ボールペンをカチカチする音	クッキーを食べる音	黒板を消すために霧吹きを吹きかける音	荷物をカバンから取り出す音
歌声		ボールペンの上の部分を押す音	麺をすする音	鉛筆で文字を書くとき	技術の時間にベルトサンダーを使う音
叫び声		サッカーで遊ぶ音	お弁当を机に置く音	鉛筆で絵をかいている音	画面操作で画面に触れる音
指などの関節を鳴らしたときの音		サッカーボールを蹴る音	教室のドアを開閉する音	物を机に置くときの音	キャップを外す音
鼻をすする音		ボールをはねさせる音	ドアをノックする音	物を触る音	教科書を机にどんと置く音
首回した時にいうゴキっていう音		ボールを受けたときのグローブの音	教室のドアに鍵をかける音	物に衝撃を与えた際に発する音	絵の具の水をかき混ぜる音
髪をとかす音		ボールを打ち返す音	ロッカーを開閉する音	物を落としたときの音	破る音
背伸びをしたときに体がゴキゴキいう音		ボールをつく音	ボタンを押す音	物を落とすときの音	黒板消しの掃除機を使う音
手や首を鳴らす		チャックを開ける音	部室のエアコンを付けるときの音	物を食べるときの音	食券のボタンを押す音
しゃっくり		ファスナーをあけたときの音	何かを書く音	荷物を下ろす音	マーカーのキャップを取る音
頭をポリポリかく音		ペンケースのファスナーを開ける音	何かを触る音	カバンを掛ける音	切る音
指を鳴らす時の音		廊下や階段を歩くときの音	何かにぶつかる音	雑巾で窓を拭くときの音	体育館シューズで体育館を走り滑るときになる音
咳払いの音		廊下を歩く音	何かを叩く音	掃除の箒の音	ホワイトボードのペンのキャップを開く音
拍手するときの手の音		上靴で滑りかけたときの音	線を引く音	雑巾で机を拭く時の音	打撃音
鼻水を吸う音		椅子をひく音	文字を書く時の音	ゴミ箱を開ける音	傘を開く音
まばたき		椅子を引いている音	下敷きでばたばたするとき	箒を履く時の音	ロッカーに鍵をかける音
鼻歌		椅子を取り落とす音	下敷きやファイルであおぐときの音	ほうきでゴミを集める音	自販機のボタンを押したときの音
爪をいじくる時の音		椅子を動かす音	悔しくて机を叩いてる音	ほうきで床を掃く音	自販機から飲み物が落ちてきたときの音
皮膚を掻く音		椅子が擦れる音	地面を蹴る音	ほうきを取り出す音	自販機にお金を入れたときの音
口笛の音		椅子を前や後ろに動かすときになる音	貧乏揺すりで地面を踏む音	掃除する音	財布をしまうときの音
鼻をかむ音		椅子とか机を動かす音	上靴で走る音	ゴミ箱を閉める音	名札を引っ張って取る音
首をぽきぽき鳴らす音		机を叩く音	爪で叩く音	ふく	制服のリボンを結ぶ音
		机を動かしている音	消しゴムを落とす音	掃除の時間になって机を動かす音	名札用のガムテープを切る音
		机を動かす音	炭酸飲料のペットボトルをあけたときの音	雑巾で床を拭く音	PCゲームの入力音
		机を揺らす音	地面に物を落とす音		キーホルダーがなにかに当たる音
		机や椅子を引く音	ペットボトルフリップ		ロッカーの中に教科書を入れる音
		机や椅子を運ぶ音	ポーカーをしている時にトランプをこする音		紙をバラまいた時の音
		机に教科書を置く音	メガネをくいっと押し上げる音		消しゴムで字を消す音
		机のガタンとする音	リボンを制服に通すときの摩擦音		
		机を運ぶときの音	荷物を置くときの音		

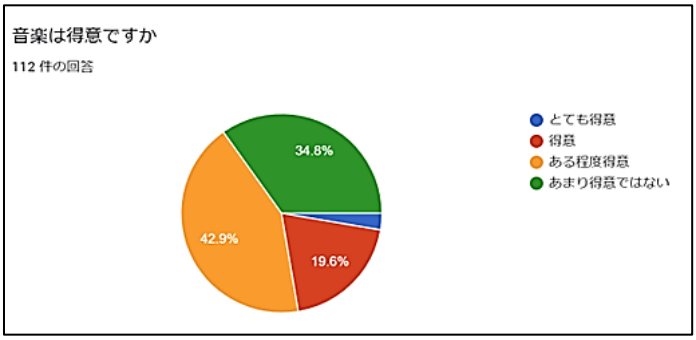
(2) 生徒観

第2学年の生徒たちは何事にも前向きに取り組む姿勢が見られる。独創性がありユーモアな発想力を持っている反面、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚する部分に対しての気づきはあるが、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し自分の思いや意図を言語で表す部分に苦手意識を持っており課題が見られる。

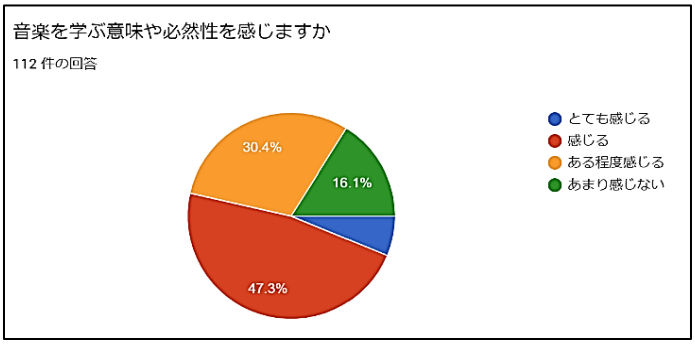
また、事前に行ったアンケート調査(4 段階尺度)からはこのようなことが言える。95%以上の生徒が音楽が好きだという回答に対して音楽に苦手意識を持っている生徒が35%弱いるということ。このことから、生徒自身が自信を持って演奏表現を行ったり、創作活動をする授業内容が授業者に求められていると考えられる。それから、音楽を学ぶ意味や必然性を感じている生徒は84%と非常に高い反面、日常の中で習った知識を活用することに対しては、34%の生徒が活用することがあまりないと回答している。このことから、学習としての音楽はあるが、日常生活における音楽という意味では実感に乏しいと考えられる。



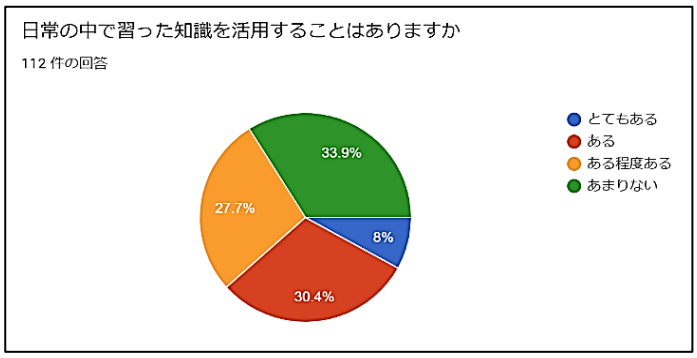
・とても好き　26.8%
・好き　34.8%
・ある程度好き　33.9%
・あまり好きではない　4.5%



・とても得意　2.7%
・得意　19.6%
・ある程度得意　42.9%
・あまり得意ではない　34.8%



・とても感じる　6.2%
・感じる　47.3%
・ある程度感じる　30.4%
・あまり感じない　16.1%



・とてもある　8%
・ある　30.4%
・ある程度ある　27.7%
・あまりない　33.9%

(3) 指導観

GRASPS

(G)Gool 目的

感情の表現方法の分析と解釈の議論を通して、受け手との効果的なコミュニケーションを生み出すことができるようにする。

(R)Role 役割

クリエータ

(A)Audience 対象

同じクラスの生徒

(S)Situation 状況

言葉が全く通じない、伝わりにくい状況

(P)Product 成果物

感情を表現する音色

(S)Standard 評価基準

・レポート(Aⅱ、Bⅰ、Bⅱ、Dⅱ)

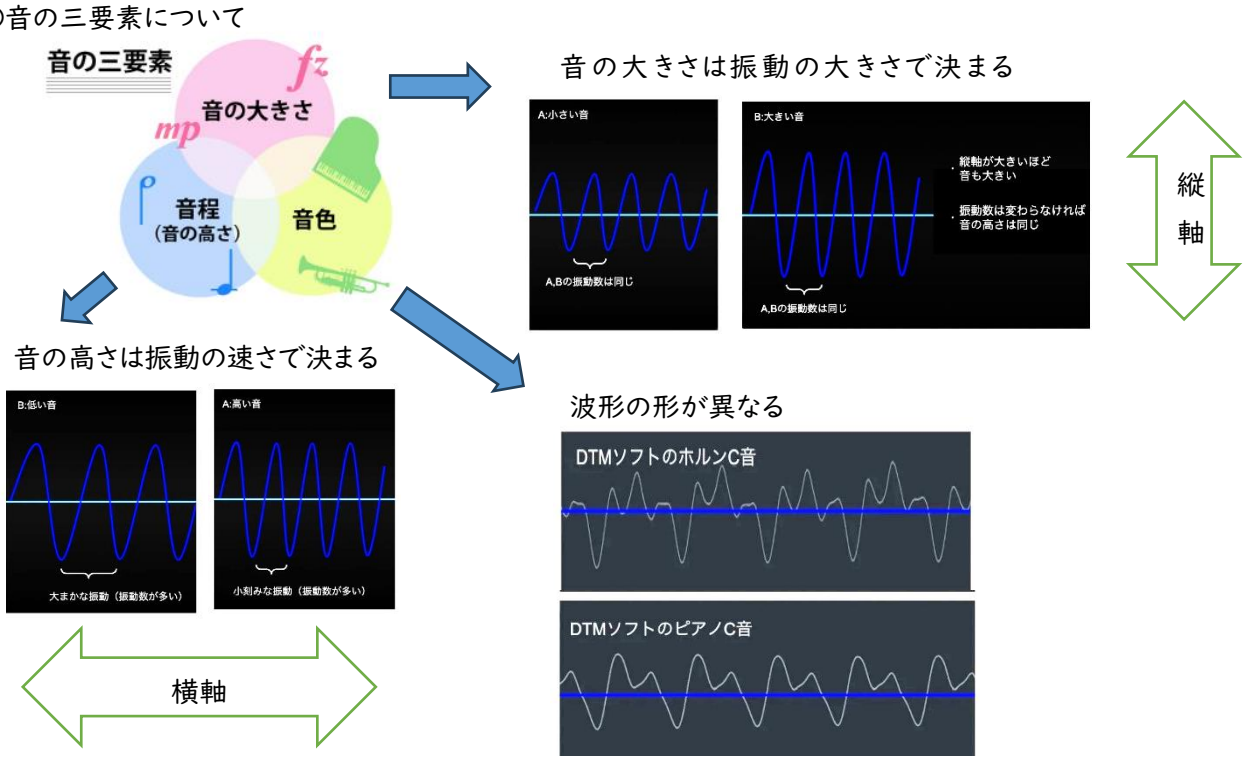
自身が生み出した音について分析し、音の三要素に基づき詳しく述べる(Aⅱ)そして、音色による感情表現を分析し、議論を重ね、根拠を持って音を創作したうえで、自身の作品を振り返り、制作過程における変遷(Bⅰ)・自身の作品の芸術的意図と音楽の要素の特徴(Bⅱ)・音とコミュニケーションについての自身の考え(Dⅱ)をレポートにまとめる。

まず最初に、自分が発する音に意識を向けさせるために、次の2つの取り組みを行う。

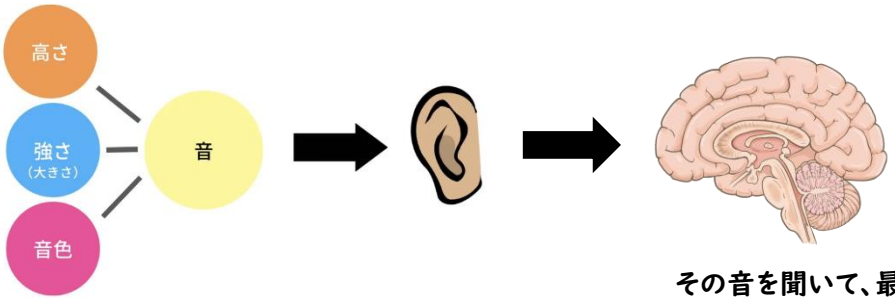
1つ目は、事前にアンケート調査を行う。内容は「学校生活の中で自分が発している、生み出している音」について行う。そのアンケート結果から、自分たちがどのような音を生みしているのか知り、音について考えるきっかけを与える。

2つ目は、個人で音の分析を行う。音がどのように伝わってくるのか、音の三要素について考える。

〇音の三要素について



〇音が生み出され、人に伝わるまでのルート



その音を聞いて、最終、どう感じるのかは脳

音の分析においては、身の回りの1つの素材と自分自身からどのような音が生まれるのか、音の三要素と関連づけて音を作らせる。そして、自身が生み出した音から「自分にとって快適な音と不快な音」を作り、聴き手に伝えることで、どのようなフィードバックがあるのか、そこから音が人に与える影響力について考えさせたい。

次に今回の探究テーマである「音色による感情表現」に関する作品を学習班で創作している上で次の2点に重点を置きたい。まず1つ目は、ポジティブな感情とネガティブな感情、相反する2つの感情の音を作成する。今回は、音楽の要素「音色」に重点を置くため、同じ素材を使って2つの感情の音を作成させる。2つ目は、1つの芸術作品として音を作成するため、次の条件をつける。

［条件］

①1つの作品につき10秒～15秒間、作成すること。

②ポジティブ、ネガティブ、2つの感情を同じ音素材を使って音色を工夫すること。

③構成の要素を必ず用いること。

・音の奏で方→反復・対照・変化　どれか1つは必ず使うこと。

・音の重ね方→ユニゾン・カノン風・音を重ねる～音を減らす　どれか1つは必ず使うこと。

④よりリアリティーな表現をするために音の三要素に含まれる音の高さ(音楽の要素：旋律、音高)と音の強さ(音楽の要素：強弱)を変化させること。そして、表現する気持ちの変化と根拠を持って関連づけること。

⑤10秒～15秒の作品の中でクライマックスになる部分を決めてまとまりのある作品になるように工夫すること。

これらの工程を3時間使って、作品を完成させる。作品の変容が分かるようにワークシートに言葉やイラストを使って作品の進捗状況を記録していく。また、班活動になるため、ロイロノートの共有フォルダ内で作業を行わせる。また、作品を作っていく過程で、班のメンバー同士で客観的に音の表現を聴き合い、それに対してのフィードバックを行い、作品のブラッシュアップを繰り返し完成度の高い作品を目指させたい。

一連の過程を経て、この単元の一番の山場である各班の作品を聴き合う時間を設定する。ここでは、自分たちの演奏表現は聴き手にどのように受け止められたのか、聴き手からのフィードバックをもとに円滑なコミュニケーションについて考えさせたい。さらに、この単元を通して、自身が発している音に意識を向けさせ日々の生活の中で存在している音の価値や音が一つのコミュニケーションの媒体になることに気づかせ、自身のコミュニケーションの在り方について振り返るきっかけになればと考えている。

4.評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音の分析(音色による感情表現)をするために、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を表したいイメージと関わらせて理解している。 ②自分なりに音の分析(音色による感情表現)に必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合わせなどの技能を身に付けている。	①音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、まとまりのある創作表現を創意工夫するために思いや意図をもっている。	①音楽を楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組み、聴き手に生み出した演奏作品の思いや意図を伝えるために粘り強く創作活動の学習活動に取り組もうとしている。

5. 単元 or 題材の指導計画（全9時間）

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1～3	音の分析	音の分析に必要な、音楽的な要素を用いて合理的な結論や一般論を導き出している。	●	●	●	態度 観察 知技①② ワークシート1 思考 プロセスジャーナル
4～6	分析と実践・議論	音色による感情の表現方法の分析をするために、音色に関連する情報を集め、整理し、作品に反映させている。 作品のブラッシュアップのために互いに意味のあるフィードバックを与え、また受け取り、作品を完成させている。	●	●	●	態度 観察 知技①② 提出動画 ワークシート2 思考 ワークシート2 プロセスジャーナル
7 本時	発表と相互評価 フィードバック	音素材の特徴を捉え、音楽の要素と関連づけて思いや意図を伝えるための工夫をし、まとまりのある音を創作し、演奏表現している。 意味のあるフィードバックを与え、また受け取ることによって、言葉によらない	●	○	●	態度 発表会振り返りシート 知技② 創作発表会の動画 思考 プロセスジャーナル

		コミュニケーションの方法(音の感情表現方法)について考察している。				
8～9	振り返り 総括的評価課題作成	フィードバックを基に、より効果的なコミュニケーションとしての音の表現とは何かを模索し最終レポートを作成している。 文字数は、1000字～1500字。 (最終レポートの内容) ①自身が生み出した音について分析し、音の三要素に基づき詳しく述べる。(知識) ②音色による感情表現を分析し、議論を重ね、根拠を持って音を創作したうえで、自身の作品を振り返り、制作過程における変遷をまとめる。(思考) ③自身の作品の芸術的意図と音楽の要素の特徴をまとめる。(知技) ④音とコミュニケーションについて自身の考えをまとめている。(態度)	○	○	○	知技①② 思考 態度 最終レポート

●･･･形成的評価（指導に活かす評価）　○･･･総括的評価（記録に残す評価）

6. 本時の展開

(1)本時の目標

1. 自分たちの作品を演奏表現する際に、音素材の特徴を捉え、音楽を形づくっている要素と関連づけて自分たちの思いや意図を伝えるための工夫をし、まとまりのある音を創作し、表現することができる。
2. 自分たちの作品に対して他者からの評価を受けて、言葉によらないコミュニケーションの方法(音の感情表現方法)について考察することができる。

(2)本時の評価規準

知技②

音素材の特徴を捉え、音楽を形づくっている要素と関連づけて思いや意図を伝えるための工夫をし、まとまりのある音を創作し、演奏表現しているという視点で評価する。

態度

創作発表会振り返りシート

発表会振り返りシートの聴き手からの記載内容を受けて、言葉によらないコミュニケーション方法(音による感情表現方法)について考察し粘り強く取り組もうとしている視点で評価する。

(3)本時で発揮されるグローバル市民性について

・自分たちの作品を表現する際に、音楽を形づくっている要素を用いて自分たちの思いや意図を伝えるための工夫をし、まとまりのある表現活動をしている場面。その理由として普段、何気なく聞いている「音」に耳を傾け、自分たちの思いや意図をどのように音という媒体を使って相手に伝えるのかということを意見交流しながら試行錯誤しているから。

・自分たちの作品に対して他者からの評価を受けて、言葉によらないコミュニケーションの方法(音による感情表現方法)について分析し粘り強く考えている場面。その理由として、コミュニケーションというのは、全世界、人と人とが意思疎通を行う共通したツールであり、効果的なコミュニケーションの方法について意見交流をしながら試行錯誤しているから。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	前時の学習内容を確認する。 自分たちの発表する作品が相手に伝わるように表現の工夫をどのようにしようとしているのか確認する。	今回の状況設定は「言葉が全く伝わらない、伝わりにくい相手に音で自分たちの気持ちを伝える」ということを再度、認識させる。	
探究テーマ:感情の表現方法の分析と解釈の議論を通して、受け手との効果的なコミュニケーションを生み出す可能性がある。(分析 表現者側/解釈 受け手側)			
ATL スキル:意味のあるフィードバックを与え、それを受け取ることによって言葉によらないコミュニケーション(音色による感情表現)について解釈する。			
今日のめあて:各班の発表を聴き、言葉によらないコミュニケーション方法(音色による感情表現)について考える			
展開1 20分	(発表者) 各班の発表を行う。 (聴き手) アイマスクをつけて、発表者の演奏を聴き、そこから知覚・感受したことをワークシートに詳しく記入する。	(発表者) 気持ちを集中させて班のメンバーと協力し合い表現するように促す。 (聴き手) アイマスクをつけて、発表者の演奏を聴き、そこから知覚・感受したことを評価シートに詳しく記入するように促す。	知技② 発表
展開2 20分	自分たちの表現に対して他者からの評価を受けて、言葉によらないコミュニケーション方法(音色による感情表現)について考察する。	自分たちの作品を通して「伝えたかった気持ち」に対して聴き手はどのように受け止めたのか。言葉によらないコミュニケーション方法(音色による感情表現方法)について班で意見交流をして発表内容を要約するように促す。	態度 発表会振り返りシート
まとめ 5分	プロセスジャーナルを記入する。	今日の授業での自分自身について振り返り具体的に記入しておくように促す。	思考 プロセスジャーナル

(5)準備物

・アイマスク 、各班で使う音素材、chrome book

7. 参考文献

・中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編 平成 29 年 7 月 文部科学省

・「指導と評価の一体化」のために学習評価の関する参考資料 中学校音楽
令和 2 年 3 月 文部科学省 国立教育政策研究所

・中等教育プログラム MYP：原則から実践へ

・中等教育プログラム(MYP)「芸術」指導の手引き

・音の 3 要素とは何？音楽の理解に欠かせない基礎知識 | er-theory (er-music.jp)

・スガナミ楽器 https://www.suganami.com/